

会報

かけはし

(題字 支部長 新海今朝巳)

令和8年2月1日

第71号

発行者 新海今朝巳

「認め・信頼すること」



私が最初に勤めた学校は地域と学校、家庭と学校、生徒と教職員

の関係がバランスのとれた初任者にとって学ぶべきことの多い場であった。校内では良き先輩にも恵まれ順調に教員生活を送ることができた。その頃は一部の中学校で生徒指導が話題となりはじめた時だったが勤務校では特に教師と生徒の関係が良く問題は起こることはなかったと思う。地域も学校に協力的であった。

次に勤務した学校は特に悪い話ではなかったが多少落ち着きのない学校だった。自分が卒業した学校ではあったが木造校舎が無くなり、新しい建物になっていた。着任し校舎内を見てまわると、清掃

副支部長 加藤 正明

はしてありごみは落ちていないが床が汚れている。ワックスだけを塗り重ね黒く輝いていた。

三年に配当され教室を見たが廊下の床と同様だった。新学期が始まり、最初の週末に何人かの目立つ生徒に協力を求め機械を使つて教室と廊下の清掃をした。見違えるほどにきれいになった。協力してくれた生徒達を翌週登校した学

アンチエイジング(抗加齢)



『あら楽し
長たる職を全
うし・・・』
の心境でゴー
ルし、退職後

十三年が、過ぎた。孔子の『七十にして心の欲するところ・・・』は、私の目標である。顔を見ると三つ

級全員の前でその成果を褒め讃えた。次の週末には他の学級からも清掃指導の依頼が入り、一学期末を待たず三年生の教室・廊下がきれいになった。

次に生徒会主導の全校集会が気になっていたので変えるべく動いた。何回かだまって見ていたが、五十分の時間で三十分位は生徒会の生徒が「静かにしてください」と言うのみで一向に静かにならず担当教師も何も言わず見守るのみ。前任校との違いに、思わず会場が静かになるまで司会をやらせて欲しいと会議で発言し、了承をもらい行つた。時間の無駄を論し、静かに整列することを話したら生徒もそれを理解してくれた。

三年生が率先して静かになった。

草加班 中村 文夫

の②、シミ・シワ・シラガが目立つ。四人の美形のプリティな孫達には、おじいちゃんと呼ばれ美しかったワイフは、この所、年には勝てずおっ家内に変身した。

最近特に、老化の三つの③が気になる。一つ目の③は、気力低下。何かしようとするアクティブさは

なく、ボーと庭を眺めて、何もやる気が湧いてこない。二つ目の③は、記憶力の低下。昨日の夕飯に何を食べたか？教え子に会つても名前が出てこない。三つ目の③は、筋力の低下。生涯スポーツの週一ゴルフのドライバーが遠くへ飛ばない。そこで、週三スポーツジム通いで、筋力アップだ。救いは、フェアウェイキープでブレないゴルフだ。パワフルで記憶力抜群の中村は、現在行方不明だ！

ブレのない学校経営は、今は必要ない。そこで学校には、強力なアシストとエールを送る。モンスタに負けず、校長職を大いにエンジンジョイして、楽しくやりがいのある経営で、全スタッフを高めて埼玉一いや日本一を常に目指して個性豊かな主人公の児童生徒一人一人を褒めて、伸ばし、高めよ！ラストに、我々退職OBは、三つの②、毎日フリーを楽しみ、常にフレッシュに、年にも老化にも負けず、いつも健康第一にファイト！大好きなビートルズの『レット・イットビー』で、人生百年時代に向けて、まだ二十年以上あるゾ。八十歳・九十歳・百歳を目標に、アグレッシブに、トライだ！

会員短信

これからも最前線で

川口班 多田出 正

年が明けると七十歳になる。六十五歳までは働かないとね、と話していた同期も早々に悠々自適の生活になった仲間も多い。私は今も「学校の香り」、「生徒の声が溢れる場所」から離れられずにいる。正確には離れたくないと言った方が良いでしょう。辛そうにしている姿や落ち着かず暴れている生徒を見るとほっておくことが出来ずそつと声をかける。昔も今も同様である。原稿を書いている今も、隣には次年度継続任用の申請書類が書きかけで置いてある。

教育の改革を思う

藤・戸田班 篠原 和人

書棚から昔の長研紀要が出てきた。学習者のつまずきと授業改善。ふと、当時の事が頭に浮かぶ。生徒の沈黙、表情、つぶやきから読み取ったつまずき要因。数々の面接から得た個々の学習ストラテジー。学習意欲と予想外の両親の不和。生の声は不可欠だった。教育のデジタル化が進展。大い

に期待するが、どこまで可能か？ 個々の認知領域はもとより、取分け流動的な情意領域にも一層留意し、今日の改革の弱点や盲点にならぬようお願いしたい。

初冬の登山に挑戦

草加班 村山 岳視

山の紅葉が日の光で輝く十月の終わりに、那須山登山に挑戦した。下界は晴れていたが、登り始めると、だんだん雲の中に入り、視界が悪くなっていく。標高が上がるにつれて風が吹き、凍える寒さに。この日は前日に降った雪があり岩場は凍ってアイスバーンの状態。転ばぬよう一步一步山頂を目指したが、強風と視界不良で登頂を断念した。ほんの数メートル下山しただけで、風もなく、視界もよくなった。冬山の厳しさを少しだけ体験した登山となった。

常に興味関心をもつて

川口班 関口 景子

現在勤務させていたたいっている戸田市では、誰一人取り残されない教育の実現に向け、「戸田型オルタナティブ・プラン」を推進している。その柱の一つである「多様な学びの場の選択肢の拡充」をはじめ様々な取組では、多岐にわ

たる民間企業やNPO法人、多数の大学や研究機関、国や県の行政諸機関等との多様な産学官連携が展開されている。新たな視点を得ること、新たな経験ができることは実に新鮮で、感謝の日々である。

大人の修学旅行

朝霞班 船津 三樹男

大人の修学旅行を始めて二十年になった。あることをきっかけに仕事でなしに京都に行こうという話になった。メンバーは全員中学校長経験者で、不動の七人である。

修学旅行なので当然役割分担がある。私の係は学習係で、会員が今まで訪れたことがない京都を案内しなければならぬ。以来、日夜テレビ等で情報を集め、脳の老化防止に役立てている。

人生の達人たちに加えていただき、楽しく豊かな修学旅行をいつまでも続けていきたい。

労働条件

川口班 渡辺 訓次

ある初心者から「県採用と市採用では給与が異なるので市を再受験したい」と相談されました。

「子供が好きだ・やりがいのある仕事だ」だけで教員になった私は、初任の当時に給与の良し悪し

「探究的な学び」の推進と「働き方改革」の新しいかたち

朝霞市教育委員会教育長

二見 隆久



朝霞市教育委員会では、児童生徒の豊かな心と健やかな体を育て、自ら未来を切り拓く力を身につけられるように教育内容の充実と環境整備を図っています。本稿では、直近で進めている二つの施策を紹介いたします。

1 「探究的な学び」の推進

朝霞市は新時代にふさわしい教育課程の抜本的見直しを進めています。中心に据えるのは「探究的な学び」です。総合的な学習の時間を核に、PBL（課題解決型学習）等の手法を活用し、児童生徒の興味・関心に基づいて課題を設定し、解決に向けて主体的に取り組む学習を推進します。学級・学校を越えた協働的な学びの場を設け、企業・行政・大学・地域・保護者と連携した実社会に結びつくオーセンティックな学びを実現します。既に市内小学校では、地域の百貨店で児童が開発した食品を販売したり、防災フェスティバルを企画したりする実践が行われて

など気にしたこともなかったで、ちよつと驚きました。考えてみれば教員も立派な労働者、より良い労働条件の職場を求めることは当然のこと。貴重な人材を手放さないためにも労働条件を整備し、魅力的なものにする必要があると痛感した出来事でした。

班の活性化に向けて

藤・戸田班 江添 信城

班では、郵便料金の値上げによる経費負担の増加や業務改善の観点から、案内等のメール配信を開始しました。現在、会員の9割以上の方にメール配信にご登録いただいています。メール配信のメリットとして、①経費削減、②事務局の業務軽減、③返信の即時性、④近況報告等の共有といった効果が挙げられます。メールを活用して班活動の情報を周知することで、班活動の活性化が図られつつあります。

六十過ぎも迷いつばなし...

川口班 松田 隆幸

私は今年度から新たに立ち上がった教育政策室で、「地域クラブ活動」についてのお仕事をしています。いつもそうなのですが、仕事について、先行事例がなく、誰

に聞いても一発回答にはなかなか出会えません。他市の担当者と連携しながら、試行錯誤の毎日です。四十にして迷わずどころの話ではなく、六十過ぎても迷いつばなしです。六十にして耳順うの実践だけは先人の言う通り。いろいろな方々のご意見に耳を傾けることの大切さを痛感しています。

経験を活かす幸せ

草加班 川崎 淳一郎

昭和で三十年、平成で三十年の六十歳で教師を退職し、また、行政でも八年勤める機会をいただいた。先日、退職した草加市立瀬崎中学校の五十周年記念式典では、お世話になった多くの方々に会うことができ、記憶が蘇り、出会えた幸せを改めて感じ、縁に感謝した。現職中は、ケニアナイロビ日本人学校、退職後は、ニューヨーク補習授業校へ赴任の機会をいただき、学校や行政で学んだこと、また、自分が積み重ねた英語や剣道を活かす喜びが幸せであった。

オンリーワンの魅力

朝霞班 隅田 浩文

現在、教育支援センター勤務五年目である。三年ほど前から「秘湯を守る会」のスタンプリングを靴に

詰め、電車や車で関東近辺の会員宿を巡っている。

ほとんどの宿は山奥の一軒家で、至れり尽くせりの高級旅館という訳ではない。しかし、どの宿もオンリーワンの魅力を活かし、創意工夫にあふれ、一軒一軒とても印象深く記憶に残っている。

個性豊かなお湯に浸かりながら、各々のよさを引き出すことの大切さを改めて実感している。

人生二重の厳しさ

川口班 松崎 寛幸

四年前退職を迎える年、次の職に向けハローワークへ駆け込みましたが、高齢者採用の壁があり次々に不採用の連続でした。当時、お世話になった先生方、地域の皆様、校長会への近況報告ができず退職しました。この場を借りて深くお詫び申し上げます。その後、技術・家庭の臨時的な受け入れ先があり、現在はその繋がりです。職に就いています。残りの人生、微力ながら未来ある子どもたちのために頑張りたいと思っています。



います。令和7・8年度を準備期間と位置づけ、年間指導計画の段階的修正や教員研修、外部協力者と連携する仕組みの整備を進めるとともに、共通力リキウムやモデル校での実践研究を通じて、特色ある教育課程を確立します。

2 教職員テレワーク制度の実施

質の高い教育の継続には、教職員が健康で充実して働ける環境が不可欠です。朝霞市では「小・中学校教職員テレワーク制度」を導入し、働き方改革を加速させます。本制度は長期休業日に教材研究や資料作成等の指導に直結する業務を自宅で行えるようにし、様々な校務に迫られる時間を専門性向上のための時間に転換します。オンライン会議や研修参加を認めることで、時間や場所の制約を超えた学びの機会を確保し、教職員の資質向上に向けた取組を支援します。

3 結びに

探究的な学びを実現するためには、教職員の働き方改革が不可欠です。今後も現場の意見を取り入れつつ、教職員がワークライフバランスを整え、児童生徒に向き合う時間を増やすことが、未来を切り拓く子供たちの育成につながることを確信しています。

支部だより

◆研究協議会開催される

令和七年度現職・退職校長北足立南部支部教育推進研究協議会が十一月十九日(水)川口市立並木公民館において、現職校長四十一名、退職校長三十五名、来賓二名、PTA二名の参加で開催された。

新海今朝巳支部長から、九月六日付けの新聞で、文部科学省は次期学習指導要領の枠組みを提示し、学校の裁量を拡大する新制度の創設を打ち出したとの記事を読み、各学校の特色づくり等のやりがいがあると感想を持ったとの挨拶があった。



南部教育事務所長黒澤誠様から、変化への対応、不易、今日的課題に取り組み、魅力ある学校づくりを進めてほしい。採用試験等情報、働き方改革、不祥事の根絶と信頼回復、「馳せる」をキャッチフレーズに推進しているとの挨拶とご講話をいただいた。



川口市教育長井上清之様からは、ベネッセ研究所の調査で、教員志望が高校生では一位だが、大学生では下がる。海外から日本の教育が称賛されていて、日本は教育意識が高い。働き方を

抜本的に変えていくために、勤務時間外の在校時間を削減目標に向かつて取り組んでいる。若者に教員の魅力を伝えていこうとの挨拶をいただいた。

埼玉県退職校長会副会長吉武寛様からは、近年、水田に水を入れない農業も行われているように、学校も変わらねばとご挨拶をいただいた。

研究協議では、「現下教育の諸課題について」をテーマに、川口市立舟戸小学校駒崎弘匡校長、川口市立八幡木中学校岸田健吾校長、蕨戸田班小高美恵子元校長から提案発表があった。質疑応答、感想発表、指導講評と有意義に進めることができた。

懇親会では、現職校長と退職校長が和やかな雰囲気の中、交流を深めることができた。

発表内容は、埼玉県退職校長会会報第百八十六号に掲載される予定である。

(文責 原田 明)

ご冥福をお祈りします

茂木 音一様(朝霞) 11/8 九十五歳
鈴木 昭夫様(蕨戸田) 12/17 九十五歳
本橋 晃様(朝霞) 12/31 七十八歳

(1月8日現在)

班だより

◆朝霞班

本年度は新入会員一名を迎え、会員百二十名でスタートした。

会員の親睦と連絡を図ることを目的に、事業を企画している。

夏には、約半月の間に、沖内義次前会長始め三名の会員がご逝去という残念な出来事もあった。

◎定期総会

五月十日、志木市民会館仮設会議室で開催した。昨年度より欠席の場合には委任状提出に改めたので、総会資料を事前に送付した。議事では、



郵便料金を含む諸物価の値上げもあり、班会費の値上げに係る規約の改正を提案した。他の上程議案を含め全て承認された。終了後の懇親会は、昨年同様開催できた。

◎会報発行

会員が自由に寄稿できる文集の『SWAN』(班四市の頭文字の組み合わせ)第二十一号を発行した。会員の近況を今回も掲載した。普段お会いできない方々の今が分かつと好評である。

◎健康ハイキング

秋晴れの十一月十二日、大河下

ラマ「べらぼう」に関する展示館の見学など、西の市で賑わう浅草エリアを散策した。江戸時代からの神社仏閣や粋でいなせな町人氣質など、江戸の面影に触れた。その後、おいしい蕎麦などを食べながら近況を報告し合った。

◎新年親睦懇親会

班の発展、会員の健康などの願いを込めて、令和八年一月二十四日に予定している。

(柿崎 勲)

あとがき

北足立南部支部会報「かけし」第七十一号をお届けします。

ご多用の中、玉稿を賜りました皆様には心より御礼申し上げます。さて、一ページ、加藤副支部長のドラマチックな内容と中村文夫先生の余裕ある、おしゃれな文章。楽しく味わわせていただきました。

会員短信。それぞれに今日的な課題や話題です。勤務条件等を優先的に考える若い先生に、さて？と考える先輩教師。

教育のデジタル化の進展に期待を寄せつつも、心配な面も。そのデジタル化で班の経費削減を叶えた事例紹介もあります。

(前田 一男)